

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570812644
法人名	(有) 県南ケアシステム
事業所名	グループホームすまいる中仙
所在地	秋田県大仙市下鶯野字大谷151番地 (電話) 0187-56-4400
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会
所在地	秋田県御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成21年11月26日

【情報提供票より】 (21年11月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年7月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計9
職員数	8人 常勤1人, 非常勤7人, 常勤換算7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造軸組 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	250 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		750 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	1名		
年齢	平均 83歳	最低	64歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 今村循環器内科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いにあり、地域との繋がりを大切にし、近隣住民と親睦を図りながら連携に力を入れているホームである。ケアについては、穏やかに暮らしながら入居者一人ひとりの生活背景を把握し、入居者本人の個別ケアに主をおき職員スタッフが丸となりケアを継続的に支援を担っている。家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの要望に答え、支援を行っているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で挙げられた課題は、地域との付き合い・評価の意義と活用・職員を育てる取り組みであった。地域では交流を深めるため広報を活用したり、町内会に積極的に参加したりしている。外部評価・自己評価等について職員に具体的な記録を報告し、サービスの向上に繋げている。研修の年次計画を作成して実施する等、改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を分析し、評価の意義を具体的に話し合い、日々のサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を行い、会議のメンバーと情報交換を行いながら、ホームの運営を行っている。また、自己評価の結果を報告しながらメンバーから意見をいただき、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対して意見や要望を聞き、お互いに信頼関係を築きながらサービスの質の向上に向けて支援をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	積極的に近隣や町内会長と連絡を取り合い、互いに協力し合いながら避難訓練や外出あるいは畑作業等を行っている。最近ではホームに対して町内の方も興味を示し、認知症について理解してくれるようになってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境を大切に自分らしく笑顔を絶やさずに過ごす」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念を作り上げ、口頭で共有化が図られ、理念を常に意識しながら実践に取り組んでいる。	○	管理者は、口頭により理念の実践に取り組んでいる。今後は、事業計画等に理念を明文化することにより、引き続き良質な理念の実践を行うよう期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族交流会、運営推進会議、町内会の会合で事業所の活動を説明したり、併設の事業所の行事等に参加するなど定期的、継続的に取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で自己評価を確認しながら支援をしている。さらに評価の意義を具体的に話し合い、日々サービスの向上に取り組んでいる		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を行い、会議のメンバーにホーム内の様子を報告している。また、メンバーからの要望や意見に対してサービスの向上に向けた対応をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険事務所等と連携を図り、事業所に対しての運営やサービスの課題について意見を聞きながら対応している。また、行事等の参加も促して協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対して、ホーム内の様子を手紙や広報あるいは、写真等を活用しながら報告をしている。預かり金も金銭出納を毎月報告を行い同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族が話しやすい雰囲気づくりに努め、信頼関係を築くことができるように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを最小限にするため研修を行う等職員が離職しないように心がけている。また、異動の時は利用者に対して説明を行う等、混乱を招かないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は採用時2週間の採用研修を行っている。また、職員の経験や年数に合わせた個々の研修計画を策定し、外部研修へ積極的に参加できる体制ができている。研修後の伝達研修も管理者を交えながら実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会等に定期的に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が、ホームの見学を行うと同時に事業所の説明を丁寧に行い理解した上でサービス開始ができるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に行事に参加したり、日常生活での知恵をいただくような会話に努めたり、家庭的な雰囲気を大切にしながら支え合う関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、性格を職員が把握して、利用者本位の会話を行い、本人の希望、家族の要望に対して質の高いケアを行っている。また、意思疎通の困難な利用者については、日頃の生活や記録から本人本位のケアになるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	バックグラウンドアセスメントを元に状態の把握に努め、本人・家族、職員や管理者・運営者がそれぞれの意見を出し合い、要望や意見を取り入れ介護計画を作成して実行している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は設定された期間毎に作成されており、職員間の会議も開催され、現場で実践的な対応ができるよう作成されている。臨機応変に介護計画の見直しやモニタリング会議を開催をして会議録に記載をおこなっている。		随時利用者の状況に合わせた介護計画を作成し、質の高いケアを実践している。今後は、介護計画の作成時に、今まで以上に利用者・家族からの意見を取り入れたり、具体的な対応について説明したりする等、よりよい支援を目指して、継続的に介護サービスの向上に努めることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前にホームの雰囲気に馴染んでもらう取組みを行ったり、家族が宿泊できるような体制を整えたりしている。また、関係機関の見学も行う等、柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医やかかりつけ歯科医、更にかかりつけ薬局との連携を図り、十分な医療が受けれるように対応している。また、定期的に受診を行い、適切な医療が受けれるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末のあり方については、事業所の方針を、利用開始時に本人や家族に対して説明を行っている。また、対応についても職員、管理者・運営者で話し合いがされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活歴、性格を職員が把握して、穏やかな声かけを行い対応している。また、書類や、個人情報については職員に秘密保持の徹底をしており管理も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者の要望や希望を聞き外出や買い物、美容院等に出かけたり、余暇の時間を有意義に過ごせるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあわせた調理方法や味付けに配慮している。更に職員は利用者と共に食事をとり、食事の後かたづけも一緒に行いながら楽しく支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	一人ひとりにあわせて入浴の時間帯の調整を行っている。また、健康状態にあわせて入浴ができるような調整も心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	バックアセスメントをとりながら日常生活の外出や洗濯・家事等において、利用者の得意な分野を活かしながら役割を見つけて支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を味わうために、花見や文化祭、敬老会等に積極的に参加をしている。また、定期的に本人や家族から要望を聞き、買い物や外食等個別に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	利用者の安全確保のために、職員は事務所、ホール、リビング等に配置しており、常に所在確認を行い見守りと目配りをして鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、町内会長や近所の方の協力を得ながら一緒に訓練を行っている。また、非常口も確保されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人に栄養士がおり、カロリーの摂取状況を把握している。また、利用者それぞれの食事摂取量や水分摂取量の把握に努め、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、ソファを置く等利用者が集まりやすいように工夫している。また、季節感溢れる装飾に配慮し、安心して生活できる雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室は本人の希望により畳やフローリングの対応が可能となっている。また、クローク等が整備されており、空間の確保がされている。更に家族の写真や使用していた鏡や置時計を置き、利用者が自宅にいるような雰囲気作りに努めている。		

※ は、重点項目。